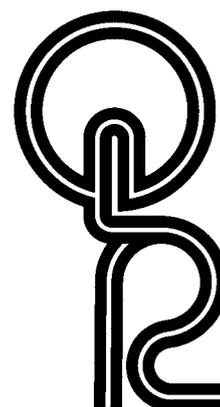


QR Newsletter



第四紀通信

Vol. 29 No.2, 2022



令和元年東日本台風（台風第 19 号）は、那珂川流域などに洪水被害をもたらした。洪水後、那珂川左岸の堤防法面（河口から約 22.5 km 上流）にはペットボトルや草本が残された。これらの位置にもとづいて洪水時の水位を推定できる。2019 年 10 月 20 日撮影（堀 和明）

Vol. 29 No. 2

April 1, 2022

2022 年大会案内（第 3 報）..... 2	学生会員継続届け提出のお願い..... 6
JpGU2022 案内（第 3 報）..... 3	執行部会議事録..... 7
学術賞受賞記念第 1 回講演会報告.... 5	会員消息..... 8
学会賞・学術賞受賞記念第 2 回講演会 のお知らせ..... 6	

◆日本第四紀学会 2022年大会案内(第3報)

本大会は、一般研究発表(口頭およびポスター)、シンポジウム、巡検を中心に、静岡県地震防災センターを会場として開催します。開催方法は、完全対面、ハイブリッド、完全オンラインのいずれかの方式で、社会的な状況を見て判断します。講演申し込み等につきましては、例年と同様の申し込み手続きで進めます。なお、開催方法の詳細や手続きについては、6月に発行される第四紀通信3号でお知らせする予定です。

1. 開催場所：静岡県地震防災センター

〒420-0042 静岡市葵区駒形通5丁目9番1号

<https://www.pref.shizuoka.jp/bousai/e-quakes/info/index.html>

2. 開催日程

8月26日(金) 一般研究発表(口頭及びポスター) 評議員会

27日(土) 一般研究発表(口頭及びポスター) 総会 懇親会

28日(日) シンポジウム・普及講演会(一般市民を対象)

29日(月) 巡検

3. 各種締切日

一般研究発表の申し込み・講演要旨原稿提出：6月30日(木) 17時

シンポジウムの講演要旨原稿提出：6月30日(木) 17時

巡検参加申し込み：8月9日(火) 17時

4. シンポジウム「伊豆衝突帯とその隣接地域における大規模自然災害(仮)」

主旨：伊豆弧は、フィリピン海プレートの北進に伴い、約200～100万年前に本州へ衝突し、伊豆衝突帯が形成された。衝突は現在も続いているので、伊豆半島やその周辺には北伊豆断層帯や富士川河口断層帯などの多くの活断層があり、地殻の変形で急峻な山岳地域が形成されている。そのため、伊豆衝突帯では内陸型地震、土砂災害が頻繁に起きている。また、伊豆弧は火山弧であるため、伊豆東部火山群、富士山、箱根火山による火山災害も起きており、1989年には伊東沖で噴火が起き、手石海丘を形成した。一方、南海トラフ・駿河トラフでは約100～150年間隔で、相模トラフでは約200～400年間隔で海溝型巨大地震が発生し、その度に大津波が南海トラフ・伊豆弧・相模トラフの沿岸域に被害をもたらした。そのため、1978年には東海地震の予知情報を基にした大規模地震対策特別措置法が制定されている。一方、2011年に起きた東北地方太平洋沖地震とそれに伴う巨大津波による激甚災害が発生し、それを教訓に、国は2012年に南海トラフで起こる海溝型地震の想定を見直し、あらゆる可能性を考慮した最大クラスのマグニチュード9程度の南海トラフ巨大地震・津波(レベル2地震・津波)の被害予測を公表した。この予測は、南海トラフ沿いの沿岸地域の社会に多大な影響を与えている。さらに、2021年に熱海市で盛土の崩落に関係した土砂災害が発生し、新たな社会問題となっている。このように伊豆衝突帯とその隣接地域は、地殻変動・火山活動が活発であり、それらの研究が2011年の東北地方太平洋沖地震以降に盛んに行われている。そこで、静岡大会では、伊豆衝突帯とその隣接地域における地震、火山活動、地殻変動、土砂災害に関する最新研究成果を学会内外の専門家から提供いただき、活動縁辺域の大規模自然災害についての理解を深めたい。

プログラム(仮)

9:00- 9:10 趣旨説明 北村晃寿

9:10- 9:50 宇宙測地学と伊豆・富士山周辺の地殻変動(仮) 三井雄太

9:50-10:30 火山噴火におけるマグマのダイナミクスと富士山・伊豆東部火山群(仮) 石橋秀巳

10:30-10:45 休憩

10:45-11:30 南海トラフ東部の古津波・古地震について(仮) 藤原 治

11:30-12:15 土石流の発生メカニズムについて(仮) 今泉文寿

12:15-12:30 質疑応答

5. 巡検

- ①石廊崎、下田の津波石、隆起貝層、大室山、柏峠(黒曜石)、熱海の土石流災害。熱海駅解散(予定)。
- ②ふじのくに地球環境史ミュージアムでの半日ほどの見学の実施を検討(ミュージアム解散)。

6. 大会実行委員会および行事委員会

大会実行委員長：北村晃寿(静岡大)

実行委員：中西利典、西岡佑一郎(以上、ふじのくに地球環境史ミュージアム)

行事委員会：工藤雄一郎(委員長)、池原 実(高知大)、箱崎真隆(歴博)、奥野 充(大阪公立大)、目代邦康(東北学院大)

連絡先：2022年大会実行委員会事務局

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836 静岡大学大学院理学研究科 北村晃寿

TEL：054-238-4798、メール：kitamura.akihisa(at)shizuoka.ac.jp ((at)を@に変える)

◆日本地球惑星科学連合 2022年大会(第3報)

- ・期日：2022年5月22日(日)～6月3日(金)
 ハイブリッド期間：5月22日(日)～5月27日(金)
 オンラインポスターセッション期間：5月29日(日)～6月3日(金)
- ・開催方式：ハイブリッド形式(現地開催+オンライン開催)
- ・現地開催会場：幕張メッセ(千葉県千葉市美浜区)
- ・大会HP：https://www.jpogu.org/meeting_j2022/
- ・参加登録開始：3月下旬から
 ※現地・オンライン参加の区別なく必要
 ※現地参加するためには来場前日までの大会参加登録が必要

現地参加する場合の留意点(新型コロナウイルス感染拡大防止措置)

- ・来場希望の方はあらかじめ来場登録が必要になります。
- ・ワクチン接種済みであることを強く推奨します。
- ・当日の発熱や体調不良等の場合の来場はご遠慮ください。
- ・会場受付、各会場入口で検温を実施します。発熱が確認されれば入場できません。
- ・会場内ではマスク(不織布推奨)の着用をお願いします。
- ・会場は入室定員を設けます。満席等で入室できない場合は別途会場内スペースからオンライン参加となります。
- ・入場不可となった場合でも大会参加登録料の払い戻しは致しません。
- ・その他、詳細については大会HPを参照ください。

■第四紀学会開催(主催・共催) 口頭講演

日時* [セッション記号] セッション名 (発表言語**) (会場***)

*：AM1=9:00～10:30 AM2=10:45～12:15 PM1=13:45～15:15 PM2=15:30～17:00

**：J=日本語 or 英語(発表者選択) E=英語

***：幕張メッセ国際会議場内の部屋番号

5月22日 AM1+AM2 [H-DS09] 人間環境と災害リスク(J)(203)

5月22日 AM2+PM1 [H-QR04] 第四紀：ヒトと環境系の時系列ダイナミクス(J)(202)

5月22日 PM1+PM2 [S-SS12] 活断層と古地震(J)(103)

5月24日 AM1～PM2 [A-HW24] 流域圏生態系における物質輸送と循環：源流から沿岸海域まで(E)(303)

■第四紀学会開催(主催・共催) 現地ポスター講演

各セッション口頭講演日の17:15～18:45がコアタイムとなります。(会場：幕張メッセ国際会議場内特設現地ポスター会場)

※現地ポスター講演は発表希望者のみ。すべてのポスターはオンライン上で掲示されます。

■ 第四紀学会単独・主催セッションプログラム

紙面の都合上、筆頭発表者のみの掲載となります。詳細については大会 HP を参照ください。

● H-QR04 『第四紀：ヒトと環境系の時系列ダイナミクス』

(コンビーナ：山田和芳、田村 亨、堀 和明、卜部厚志)

口頭講演：5月22日(日) 10:45～12:15 (会場：202 幕張メッセ国際会議場)

- 10:45～11:00 三條竜平ほか：北海道赤井川カルデラにおける後カルデラ期の地形発達
11:00～11:15 鈴木毅彦ほか：多摩丘陵から武蔵野台地南部地下にかけての上総層群の追跡：府中、調布コアを中心に
11:15～11:30 中澤 努ほか：台地内に発達する谷底低地の S 波速度構造と地盤震動特性：武蔵野台地の開析谷の例
11:30～11:45 唐澤信司：地球の気候と古代文明に及ぼした太陽風の影響
11:45～12:00 山田和芳ほか：人工水域堆積物に記録される都市域の環境史
12:00～12:15 Discussion

口頭講演：5月22日(日) 13:45～15:15 (会場：202 幕張メッセ国際会議場)

- 13:45～14:00 石山陽子ほか：Formation process of lake sediment in Lake Tazawa, Akita, Japan
14:00～14:15 酒井恵祐ほか：北海道東部、春採湖湖底堆積物の花粉分析による縄文海進期の植生変遷についての予察的研究
14:15～14:30 鹿島 薫ほか：台湾中部頭社泥炭地における珪藻および黄金色藻化石を指標とした過去 9000 年間の洪水履歴の復元
14:30～14:45 仲村康秀ほか：プランクトンに対する DNA メタバーコーディングを用いた古環境復元：穴道湖における研究例
14:45～15:00 堀 和明ほか：濃尾平野の氾濫原表層にみられる有機質堆積物と氾濫原の発達過程
15:00～15:15 Discussion

ポスター講演：5月30日(月) 11:00～13:00 (オンラインポスター Zoom 会場 12)

1. 佐々木勇人：武蔵野 I 面南東部における更新統の堆積相と層序：関東ローム層の剥ぎ取り試料と 100 m ボーリング試料を用いた検討
2. 村田昌則ほか：埼玉県、加須低地西部における沖積低地の地形形成過程—テフラ分析に基づく検討—
3. 小松原 琢ほか：京都府南部・木津川右岸丘陵に分布する大阪層群最下部の広域テフラ
4. 立石 良ほか：富山県小矢部市周辺に分布する鮮新 - 更新統のテフラ層序の再検討
5. 馬 博文ほか：Exposure ages of uplifted marine terraces along the coast of the Sea of Japan estimated from terrestrial in situ cosmogenic radionuclides dating, Fuka' ura and Murakami area, Northeast Japan
6. 常岡 廉ほか： ^{137}Cs 法および ^{210}Pb 法に基づく湿原堆積物表層の高時間分解能年代測定
7. 近藤玲介ほか：北海道根室半島周辺の海成段丘上とその周辺における湿原堆積物の層序
8. 小山ののほか：古日記天候記録による小氷期の気候復元—北陸の雷について—

● S-SS12 『活断層と古地震』(コンビーナ：小荒井 衛、白濱吉起、佐藤善輝、吉見雅行)

口頭講演：5月22日(日) 13:45～15:15 (会場：103 幕張メッセ国際会議場)

- 13:45～13:50 Introduction
13:50～14:05 石山達也ほか：日本列島の第四紀堆積盆地に分布する伏在活断層
14:05～14:30 大上隆史ほか：島原湾における雲仙断層群南東部(海域部)の活動性(招待講演)
14:30～14:45 豊蔵 勇：台東区入谷駅付近における東京層上部層及び沖積層の変形構造 - 飛鳥山断層の南東端部？
14:45～15:00 宇根 寛ほか：阿蘇外輪山・象ヶ鼻断層における 2016 年熊本地震前後の断層変位
15:00～15:15 Discussion

口頭講演：5月22日(日) 15:30～17:00 (会場：103 幕張メッセ国際会議場)

- 15:30～15:45 矢田部和真ほか：根尾谷断層破碎帯地下浅部における最新すべり面の特徴と強度回復過程
15:45～16:00 中島展之ほか：常時微動観測により推定した宮野原断層周辺の地盤特性と 2011 年長野

県北部地震の家屋被害との関係

- 16:00 ~ 16:25 レゲット 佳ほか：東北地方における地殻変動履歴復元に向けたエゾカサネカンザシゴカイの適用可能性の検討 (招待講演)
- 16:25 ~ 16:40 中基裕美ほか：津波波形と地殻上下変動のジョイントインバージョンから推定した1923年大正関東地震の震源過程
- 16:40 ~ 17:00 Discussion

ポスター講演：5月30日(月) 11:00 ~ 13:00 (オンラインポスター Zoom 会場 18)

1. 田力正好ほか：丹生山地西縁、朝日・蟬口断層の断層変位地形と変位速度
2. 中村耕佑ほか：飛騨高原北部に分布する稲越断層・太江断層・畦畑断層・数河断層の活断層調査
3. 高橋秀暢ほか：横手盆地東縁断層帯に平行する測線における反射法地震探査
4. 岡田直也ほか：根尾谷断層ボーリングコア中の変形構造の分布とその特徴
5. 青木駿典ほか：岐阜県本巣市根尾長嶺における根尾谷断層の極浅部断層破碎帯の特徴
6. 川嶋涉造ほか：超多重スタックの地中レーダ探査に基づく奈良盆地東縁断層帯・帯解断層の浅部地下構造
7. 井元政二郎ほか：古地震時系列に対する更新過程 Brownian Passage Time 分布モデルの異なる決定法によるパラメータ値の比較について
8. 林 豊：1780年ウルフ島地震による日本での津波のデータの信頼
9. 服部健太郎：Damaging earthquakes and meteotsunami in foreign settlements in the early Meiji period (1873-1884): Collection of seismic information from foreign-language newspapers in Japan
10. 南 怜奈ほか：安政南海地震時に徳島県と和歌山県で発生した火災の特徴

◆ 2021年日本第四紀学会学会賞・学術賞受賞記念第1回講演会報告

木村 誇 (愛媛大学)

2022年2月12日開催の2021年日本第四紀学会学会賞・学術賞受賞記念講演会にて、2021年学術賞受賞者である中塚 武会員(名古屋大学)と田村糸子会員(中央大学・明治大学)の2名の受賞記念講演が行われた。新型コロナウイルス感染症の拡大を踏まえてオンライン大会での開催となったが、常時100名を超える聴講者の参加があり盛況のうちに終わった。

中塚会員は「気候変動の周期性と新しい人類史研究の可能性—樹木年輪の酸素同位体比が示唆するもの」と題し、年輪セルロース中の酸素同位体比の変動パターンに基づく新たな年輪年代測定法について、その原理(気候変動に対する樹木の生理的応答メカニズム)を解説されるとともに、同手法を用いて構築した過去2600年間の変動曲線による古気候復元の成果を紹介された。今回の講演は、特に酸素同位体比の変動にみられる数十年周期の振幅(夏季の降水量の多寡や気温の変動)と文献史料等との対比で明らかになってきた最新の歴史学・考古学的知見を述べるものであった。例えば、中世・近世の飢饉は、極端に雨の多い年

や少ない年ではなく、むしろ温暖な気候が数十年続いたあと気温が急激に低下した年に(すなわち水害や干ばつではなく冷害によって)発生していることなど、古気候プロキシの時間分解能を年単位にまで高められたからこそこの議論だと感じた。

田村会員は「中央日本における鮮新-更新世の広域テフラ編年とその意義」と題し、鮮新-更新世のテフラ層序と広域テフラの対比・編年について、火山ガラスの分析法の発展と関連付けてその成果を紹介された。講演では、高校教諭だった会員が東京都立大学へ内地留学をした際のテフラとの出会いから始まり、本格的なテフラ研究に着手された修士課程から現在までの20年以上に及ぶ研究の歩みが述べられた。特に房総半島の千倉層群に挟まるテフラ層を広域対比した研究は、鮮新-更新統中における重要な鍵層の年代精度を高めたものであり、また、その後の上総層群におけるテフラ層序研究にもつながっていることから、日本列島のテフラ編年の進展に大きく貢献する成果だと感じた。

両会員の講演に共通して印象に残ったのは、

どのようなブレイクスルーがあって研究が大きく進展したのかが述べられていた点である。中塚会員は、年輪セルロース中の酸素同位体比が樹齢とともに低下していく問題に対して、水素同位体比が逆の傾向をもつことに注目して樹齢の影響を除去し気候変動成分のみを抽出する手法を開発したことを述べられた。いとも簡単に着想したかのような語り口であったが、地道な分析を繰り返す苦心の末に見出だされたものに違いない。田村会員

の講演の中でも、当時はまだ広く普及していなかったICP発光分析法による火山ガラスの微量成分分析を導入したことで、従来の主成分分析では識別が困難だったテフラを明確に特徴づけて識別できるようになり、広域での対比が可能になったことが述べられた。両会員ともこれまでの成果だけでなく今後の課題を前向きに語られている姿が印象的であり、さらなる研究の進展を予感させる講演会であった。

◆ 2021年日本第四紀学会学会賞・学術賞受賞記念 第2回講演会のお知らせ

2021年日本第四紀学会学会賞・学術賞受賞記念 第2回講演会は以下の期日で実施する予定です。申し込み方法は後日お知らせ致します。

期日：2022年6月4日（土）10:00～12:00

参加方法：Zoomによるオンライン講演会、無料（非会員の方でも参加できます）

プログラム：

10:00～10:05 開会挨拶

10:05～10:55 学会賞受賞講演 川幡穂高会員「極端気候が促す日本人と日本社会の進化—過去・現在・未来—」

10:55～11:05 休憩

11:05～11:55 学術賞受賞講演 岡田 誠会員「房総半島の海成鮮新—更新統における古地磁気—同位体複合層序の構築とその意義」

◆ 学生会員の皆さまへ「学生会員継続届け」提出のお願い

日本第四紀学会では、正会員（学生）会費（5,000円）にて継続する場合、毎年在籍中であることを「学生会員継続届け」として提出していただくことになっています。

2022年度（2022年8月1日～2023年7月31日）を正会員（学生）として、継続希望される方は、A4判の用紙（様式自由・ワープロ使用）に、申請者の所属・学年・氏名・連絡先・指導教官氏名を明記のうえ、指導教官の署名または捺印を添えてお送りいただくか、有効期限が明記された学生証のコピーを2022年6月17日（金）までに日本第四紀学会事務局まで郵送またはメール添付にてお送り下さい。

本届が提出されない場合は、2022年度第1回目会費請求時に、通常の正会員会費（9,000円）にて会費請求がされますので、ご注意ください。

また、日本学術振興会特別研究員（PD）や科学技術特別研究員などは通常会員となります。

問合先・送付先：〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号

新宿ラムダックスビル 日本第四紀学会事務局

E-mail：daiyonki(at)shunkosha.com TEL：03-5291-6231

提出方法：郵便もしくはメール添付にてお送り下さい。

◆日本第四紀学会 2021 年度第 4 回執行部会議事録

日 時：2022 年 2 月 24 日（木）9:00～12:30
 方 法：Zoom システムを用いたオンライン会議
 出席者：鈴木毅彦（会長）、北村晃寿（副会長）、
 須貝俊彦（副会長）、水野清秀（庶務）、
 齋藤めぐみ（会計）、那須浩郎（広報）、
 工藤雄一郎（行事）、山田和芳（渉外）、
 田村 亨（領域 1）、堀 和明（領域 2）、
 目代邦康（領域 5）
 欠席者：荻谷愛彦（編集）、卜部厚志（領域 3）、
 海部陽介（領域 4）
 オブザーバー出席：
 永峯菜穂子（事務局）、春恒社システム担当者

主な報告事項

(1) 論文賞・奨励賞の候補論文のリストを作成した。また、名誉会員・功労賞選考に関する役員歴・顕彰歴などの基礎資料を作成した。
 (2) オンラインで開催された 2021 年大会に関する費用の清算を行った。また、業務委託費第 1 回請求分の支払いを行った。
 (3) 繰越金や予算案にない今後の予算使用提案を執行部会から募り、学会の諸システムの IT 化や「第四紀研究」の電子化などの提案を受け、見積もりを取って会計委員会にて検討を行った。
 (4) 故糸魚川淳二名誉会員のご遺族より寄付金の申し出があり、その対応を行った。
 (5) 2021 年度会計中間報告（2021 年 8 月 1 日～12 月 31 日）を取りまとめた。
 (6) 「第四紀研究」投稿論文の審査と編集を行った。2 月 21 日現在の手持ち原稿（書評除く）は、受理前 9 編、受理済 7 編（うち 5 編は早期公開済みであり冊子体として順次配付予定）。別に、2016 年千葉大会シンポジウム領域 2 特集号その 2、2021 年遠隔シンポジウム「陸域アーカイブから読む環境変遷と巨大災害：防災・減災に向けて」特集号、2021 年大会シンポジウム「近畿における歴史時代の自然環境」特集号の投稿原稿受付を開始した。
 (7) 第四紀研究カラー印刷等の希望欄を追加した新送り状を投稿規定に入れ、第四紀研究第 61 巻 1 号に掲載する準備が完了した（学会ホームページでは公開済み）。
 (8) 編集書記用パソコンが経年劣化したため、2022 年 2 月ノート型パソコン 1 台と関連ソフトを購入した。旧型機から新型機へのデータ移転等が完了したら完全なデータ抹消を施して旧型機を適切に処分する予定。
 (9) 「第四紀通信」第 29 巻 1 号を編集・刊行した。また、学会ホームページの更新とメーリングリス

トでの情報配信を行った。
 (10) 2022 年大会は日程として 8 月 27 日～30 日か 8 月 28 日～31 日のどちらかとし、静岡県地震防災センターで開催予定であるが、社会的な状況をみて、完全対面、ハイブリッド、完全オンラインのいずれかで実施することにした。シンポジウムは「伊豆衝突帯とその隣接地域における大規模自然災害（仮）」で 4 名の講演者を予定している。巡検や普及講演は検討中である。
 (11) 2022 年 2 月 12 日（土）10:00～12:00 にオンラインにて 2021 年日本第四紀学会学会賞・学術賞受賞記念第 1 回講演会を開催した。学術賞受賞者の中塚 武会員による「気候変動の周期性と新しい人類史研究の可能性—樹木年輪の酸素同位体比が示唆するもの」と田村糸子会員による「中央日本における鮮新 - 更新世の広域テフラ編年とその意義」と題する講演が行われた。事前登録者は 170 名以上に及んだが、システム設定が 100 名までとなっていたことに開始時まで気が付かず、参加できなかった登録者には後日録画配信で対応を行った。
 (12) 学会賞・学術賞受賞記念第 2 回講演会を 2022 年 6 月 4 日（土）10:00～12:00、オンラインで開催することにした。
 (13) 2022 年 5 月 9 日開催予定の防災学術連携体シンポジウム「自然災害を取り巻く環境はどう変化してきたか」に第四紀学会からは鈴木克明会員（産業技術総合研究所）による「福井県水月湖年縞堆積物から読み解く完新世後期の災害史」と題する講演をエントリーした。
 (14) 日本地球惑星科学連合 2022 年大会（5 月 22 日～6 月 3 日）について、単独主催「第四紀：ヒトと環境系の時系列ダイナミクス」セッションは、総数 18 講演（口頭 9、ポスター 9）、共同開催「活断層と古地震」セッションは総数 18 講演（口頭 8、ポスター 10）となった。どちらもコマ数 2 を維持することができている。
 (15) 自然史学会連合の総会が 2022 年 1 月 10 日（月・祝）にオンラインにて開催され、百原 新委員が参加した。
 (16) 金沢大学（先魁プロジェクト「海洋底掘削による環境変動／海洋プレート国際研究拠点の形成」）と第四紀学会との共催で、古海洋に関するオンライン国際ミニシンポジウムが 2021 年 12 月 9 日（木）9:00～12:00 に開催された。シンポジウムタイトル “Proxy for Paleotemperature Reconstruction: a key to understanding the past climate change”

主な審議事項

- (1) 第2回評議員会(3月23日)の議題と担当について確認を行った。議事は2021年度事業進捗報告、2021年度会計中間報告、第四紀研究執筆要項改訂案、寄付金の取扱い等に関する内規案のほか、意見交換として、ほかの学会が採用している会費納入・論文投稿・大会参加オンラインシステムについての事例、「持続可能な発展のための国際基礎科学年」への具体的な取り組み、「デジタルブック最新第四紀学」の在庫切れに対して増刷・改訂などを行うか、などに関して意見を聞くことにした。
- (2) 会費納入、論文投稿、大会参加などに関する

オンラインシステムの導入について、その方法や見積もり額などをもとに検討を行った。ほかの学会での事例や現状を調査し、改めて検討することにした。

(3) 寄付金の取り扱いに関する規約について検討を行い、寄付金申込書などの様式とともに内規案として整理し、評議員会に諮ることにした。

(4) 編集書記用パソコンは学会の資産として登録することにし、廃棄する際には学会側が責任をもって廃棄手続きを行い、情報漏洩がないようにすることを確認した。

(5) 学会メーリングリストの配信について、行事委員長にも投稿権を付与することにした。

.....

★★★ 第四紀学会に情報をお寄せください ★★★

日本第四紀学会では、第四紀通信のほか、メーリングリスト(ML)、ホームページ(HP)を用いて情報発信をしております。メール本文に配信内容のタイトルと簡単な情報を書いて広報委員会アドレス(jaqua-koho(at)quaternary.jp)へご投稿ください。

情報発信の手段として、MLの積極的な使用をお願いします。MLへのご投稿についての詳細は、第四紀通信29巻1号の巻末をご覧ください(下記の通りHPでも閲覧可能です)。第四紀通信には主催・後援イベントなど第四紀学会として会員に広く周知する必要があると認められる情報を、HPには主催・後援イベントなどのほか「公募・助成」情報等を掲載します。詳しくは広報委員会アドレス宛に、個別にご相談ください。また表紙写真等も募集しています(詳細は第四紀通信27巻6号の巻末をご覧ください)。

第四紀通信は偶数月1日刊行予定としていますが、奇数月下旬にはPDFをHP(<http://quaternary.jp/>)にアップしていますのでご利用ください。

日本第四紀学会広報委員会

日本第四紀学会事務局

〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル

株式会社春恒社 学会事業部内

E-mail: daiyonki(at)shunkosha.com 電話: 03-5291-6231 FAX: 03-5291-2176